



第141号

平成30年10月1日発行
発行所
長崎大学玉園同窓会
〒850-0029
長崎市八百屋町36番地
☎095-824-5494
発行人
濱崎嘉一郎
(株)昭和堂

就任あいさつ

我が学舎はこころのふるさと

玉園同窓会会長

濱崎 嘉一郎



平成30年6月24日に開催された本同窓会総会において指名承認された新会長の濱崎嘉一郎です。会報「たまごの」の貴重なページをおかりして、一言ご挨拶申し上げます。

長崎大学玉園同窓会は、明治19年（1886年）創立以来130年の輝かしい歴史を持っています。その間には、長崎師範・女子師範、学芸学部・そして教育学部と変遷しながらも、「我が学舎はこころのふるさと」を合い言葉に強い絆と意識で連携協力し、会員の相互親睦や長崎県

はもとより我が国の教育の振興を目標に掲げ、日々活動してまいります。

私は一人の大先輩のことを思い起こされてなりません。教育学部の前身である師範学校卒業生で、もちろん本同窓会会員の元長崎県知事の久保勘一先輩です。出身地は東シナ海に囲まれたさい果ての島・三井楽は、その北端に近い貧しいむらです。勤一先輩は貧しいながらも母親をはじめ姉妹達の血のじむような絆と愛情で師範学校に進学され、在学中は仲間からも人間勘一として尊敬されました。教師としても、子ども・地域を愛し、政治家としても教育及び母校の発展に尽力されました。そんな

な先輩と同じ母校を持ち、同じ同窓会員であることを誇りに思い、「我が学舎は、こころのふるさと」のものと同窓会創成期の会員同士の「助け合い、感謝、尊敬のこころ」を大切にしながら、歴史ある同窓会・母校の限らない発展に尽くさなければならぬ使命を会長として重く受け止めています。

現在、同窓会は主に次のような事業を行っています。具体的には、年2回発行している会報「たまごの」に詳しく掲載しておりますが、●県内の公・私立小中高等学校及び特別支援学校への図書購入費助成事業（1校につき約10万円）●児童生徒の健全育成を目的として活動している団体への活動費助成事業（1団体につき約5万円）●教育学部生への修学・就業支援事業（教育学部との連携協力のもと教育学部生の教育公務員採用試験の合格率向上を目的にしたセミナー事業）●教育学部への支援協力（学業優秀な卒業生への「たまごの賞」の授与 美術・科学・音楽などのサークル活動への支援）●地区懇話会（県下17支部において年1回、教育学部長様を交えて、地域の教育課題や、教育実践の発表、そして会員どうしの相互親睦を図る事業です。30年度は第16回目を東彼杵地区で開催予定）。

しかしながら、これらの事業に対して会員による認知と理解が十分になされていないと思います。それは、会員の会費納入率の低下にも見ることが出来ます。更に学生及び会員を取り巻く教育事情の変化、同窓会事務局の事業に対する積極的な研究不足にも起因していると考えます。

事務局は皆様方会員の会費によっていろいろな事業を計画実践しております。事務局員はボランティアで頑張っています。会費の集まり状態如何がすべてのもつになります。どうぞご理解とご協力をお願いします。

これらの課題解決策として、総会・理事会機能の積極的活用、会員が持っている課題・悩みなどの生の声を、アンケートやインターネットなどを通して吸い上げ、その一つ一つに真剣に対応し、会員と事務局が一丸となって、皆が求める同窓会、創成期の会員の揺るぎない母校愛、会員相互の強い絆が見られる同窓会を創りたいと切望しています。どうぞアンケート等に対する会員の皆様の積極的なご協力をお願いします。

教育学部生のセミナーにおける講師の講話に食い入るような真剣な眼差し。年1回17地区で開催される地区教育懇話会における会員の楽しい会話や笑い声の思い出。これら、先輩達が創った同窓会の意義と長い歴史を改めて考えさせられます。

思い出すこと、思ふこと

——退任のごあいさつにかえて——



玉園同窓会前会長

山崎 滋夫

4年前の6月、先輩方の言葉に押し切られた形で会長に就任したことが、ついこのあいだの事のようにです。

あつという間の歳月でしたが、多くの皆様に暖かなお力添えを賜り、少なくはなかった苦勞も今ではよい思い出です。

同窓会というのは、ふつう、母校を共にする者が互いの親睦と交流を深め、志を同じくすることがらの実現を目指して活動する団体です。が、会長をお受けした玉園同窓会は、これに加えて、社会の不特定多数の人の利益となる「公益目的事業」の実施を義務づけられた「一般社団法人」としての初年度でした。

先輩方が残された基金や会費を計画的に運用して、会員以外の人々や団体に役立つ事業を展開し、毎年度の報告書を提出するというこの仕事は、同窓会事務局の能力を超えたものだと感じました。

関係の法令集を読む傍ら、県教委の指導を受け、公認会計士の助言と支援を求め、理事や幹事の皆さん方の知恵を借りながら、任期の半ばを過ぎた頃にか現行の運営体制と事業展開の形が整いました。

この間に頂いた各位のご支援とご配慮に心から感謝するとともに思い起こすことの多い中から、同窓会のこれからに向けての幾つかを列挙いたします。

1 会員の確認と名簿管理

会の運営の土台となる会員の多くが毎年の人事異動によって所属が変

動し、転居やご逝去などのお知らせが乏しいこともあって正会員の正確な把握には難しさを感じました。異動名簿や職員録による確認だけでも、総会直前までの3か月を要します。終身会員や教員以外の会員の情報は本人やご家族の連絡を待つ以外はなく、総会の案内はがきには居所不明の返信がかなりの数にのぼります。

2 「総会」の開催

法人化以前は、県内各地域の代表者による会合によって同窓会としての議決が行われていましたが、こうした代議制は事実上不可能であるとの指導を受けました。

正会員はみな一票の議決権を持つ「社員」であり、欠席の場合は委任状をもって議事を会長に委任する定めになっています。学校勤務の会員については各職場で、出欠と委任状をまとめて報告いただくこととしており、各学校代表の先生方には会報の配布や会費の徴集も併せて、大変お世話をかけているところです。いつも申し訳なく思っております。何か改善の工夫はないか、まだ考えています。

3 「公益目的事業」の展開

県内諸学校への学校図書購入助成はかなり周知がすすみ、応募数も定着しましたが、小学校に偏する傾向があります。教育学部生への修学就業支援は母校のご協力を得て円滑に行われ、教員採用対策の講座は講師の皆さんの熱意もあって、質の高い学びとなっております。「健全育成活動助成」はまだ認知度が低く、PRが必要ですが、地域の子どもや保護者等の活動のために、広く役に立てていただきたい事業です。

4 同窓会への意識・関心

玉園同窓会は、教師をめざして学びを共にし、教職への道を歩いた仲間や恩師、母校に対する思いに根ざす心の集いです。生活の実益とは無縁ですが、社会に生きる原点となつた学びの日々を時に振り返り、同窓会への心をお寄せください。

会員の皆様のその心を繋ぎあわせてこそ、この同窓会は会員と地域社会にとって価値ある存在として成長することができると思っております。これからのさらなるご発展と、会員各位のご健康を祈ってごあいさつの文といたします。

特色ある学校

「Let's get together」(集まりました)



佐世保市立金比良小学校校長 高島 秀雄

本校は、標高364mの弓張岳を背に波静かな葉港(佐世保港)を目前に臨む風光明媚な地に学校があります。創立25年目(平成6年開校)の若い小さな学校(7学級135名)ですが、地区の学校教育の歴史は古く、明治末、校区内に琴平尋常小学校が開校され、現在の本校に至っています。これは、佐世保港に海軍工廠(現佐世保重工業)が設置され、従業員家族が本校区に多く移り住んできたことによるものです。戦後、ベビーブーム期の児童は1500名を超え、町内は大変な賑わいを見せたと聞いております。当時から地域の教育力も高く、学校・家庭・地域が一体となった児童生徒の健全育成が熱心に行われています。また、本校のもう一つの特長とし

て外国人児童生徒との交流活動があります。本校区内には、アメリカ海軍佐世保基地および軍従事者の住居があり、軍従事者家族用の幼稚園と小学校(サセボエレメンタリースクール)・中学校と高等学校(EJキングスクール)そして大学の分校も併設されています。本校は、これらの学校が夏休みに入る6月以降、スクール児童を体験入学者として受け入れてきた歴史があり、日本人と外国人の児童同士の交流はごく普通に行われてきました。現在のような教育課程の中にエレメンタリースクールとの交流学习を位置づけるようになったのは、平成10年の学習指導要領で新設された「総合的な学習の時間」が契機です。この中の国際理解教育における外国語教育の一環として交流する活動を取り入れるようになりました。国、文化、学校制度、カリキュラムが異なる中、単なるイベントではない学習活動とは何か。英会話指導が先か、異文化理解が先か、融合した学習と

はどのようなものか。長崎大学をはじめ地元大学等から専門的な指導を賜りながら意義のある活動、必然性のある学習を模索してきました。近年は、外国語教育にかかる研究指定や小学校1年生からの英語教育導入(教育課程特例校)、隣接する光海中学校と小中一貫教育(9か年の英語教育)など学校運営にかかる支援もいただき、本校ならではの交流活動を含む外国語教育の体系ができてきたところです。さらに、佐世保市の施策「英語が話せる街 佐世保」のモデル事業を展開する中で、次期学習指導要領にあるコミュニケーションを図る素地・基礎となる資質能力の育成を進めております。例えば、エレメンタリースクールの友人が交流に来た場面を設定し、日本の昔遊び、自己紹介、佐世保市の案内など学年に応じた必然性のある学習状況をつくり、より良い交流ができるための構文や語彙の学習を行うことで、意欲的効果的な外国語学習が展開できるよう計画しております。

近い将来、今の児童が大人になって生活する社会は、AIと外国人(含移民)の共存社会であるといわれます。世界中の人やモノが高速通信で結ばれ、AIに負けない高いコミュニケーションスキルが求められるでしょう。一方で、言語・文化の異なる人々と身近に生活することもごく普通になってくるでしょう。これからは、語学力とともに異文化を理解する(相手を理解する)ことが今まで以上に必要となってきます。戦前・戦後に「Let's get together」(集まりました)と言わずとも集まったこの地に、新たな「Let's get together」に「共に生活をする時代」が到来することでしょう。私たち教職員は、目の前にいる子供たちへの教育が、将来、どの世界においても住みよい社会づくりに貢献できる、コミュニケーション能力のある人間形成の一助になると確信し、激動する教育実践に果敢に臨んでいかねばならないと思います。



スクール児童との交流

あの人、は、今

米寿を迎えて

東京都小金井市前原町 畑島喜久生

(昭和24年3月卒)



わたくしは、昭和24(1949)年の、長崎師範の卒業生ですから、長崎大学移行前の四制師範学校の最後の卒業ということになります。

卒業後、郷里の対馬の小・中学校に5年間勤務しましたが、昭和29(1954)年、上京し、東京の小学校に36年勤めて定年退職し、あと、白百合女子大を初めとし、東京学芸大学などに10年勤務。さらにそのあと、東京保育専門学校校長・理事として10年働き、合わせて教育の仕事を61年やったことになりました。そしていま88歳。

それに併せるように、高齢者叙勲というところで、「瑞宝双光章」なる教育功労賞の授与を受けました。ありがたいことです。

わたしは、師範学校予科2年の学徒動員中、西浦上の寄宿舎で被爆し、一度死にかかった命ですから、教師になってからは、自分を捨てて、目の前の子どもや学生のために尽し抜きました。それで、今回の受勲はよかったですと振り返っています。

しかしいざいざにして「詩」を中心とした物書きでもあって、現在、102冊の著作をもっていて、この夏—8月9日には、詩集『老いの柵しごみ双紙』、来春—89歳の誕生日には、少年詩集『わたしの花図鑑』を出すべく用意をしているところです。ですから、午前中作詩、午後は読書と、やることは満杯、ほんやりしている暇はありません。ありがたいことです。

長崎大学玉園同窓会東京支部では、会計監査を務めており、体が動くかぎりつづけようと思っています。「長崎師範」あつてのわたくしでしたから。

手作り子供神輿

小江原第一自治会 久家 勇

(昭和35年3月卒)



小江原(長崎市)に1678年(延宝6年)創建された愛宕神社がある。1978年(昭和53年)創建300年を記念して秋の大祭が開催された。自治会は協賛して祭礼の日に子供神輿を奉納することにした。そのねらいは、子供たちの思い出作りと地域の活性化。

神輿を出すといっても、それに必要なものは何もない。神輿は地域の酒屋さんに分けてもらった樽神輿。太鼓は知り合いの店から借用。ベニヤ板の大うちわ、采、紅白の綱などは会員有志で作り、一応必要なモノの準備はできる。

当時150世帯余の自治会であったが、参加幼児・児童は容易に50人近くは集まる。

子供たちも初めてのことで興味津々。前日、巡行の所作など指導。自治会では豆しぼりのタオルだけ準備。参加服装は体操服。子供たちも神事に参加し、神主さんの神輿の話を神妙に聴き、元気に出発。好天にも恵まれ、鎮守の森にもドンドン、ワッショイのかけ声を晴れやかに響かせ、長い石段を下り、住宅街へと繰り出す。自治会長は紋付袴に山高帽子で輿を添える。住民も大勢出て迎え声援する。

公園でお母さんたちが準備したおにぎり弁当を食べ、再び神社へ帰る。子供たちの笑顔も絶えず、所期の目的は達したように思う。

会員からの御花は予想以上に多く、翌年からの向け、法被を購入。その後、氏子有志から本格的な神輿と太鼓が奉納されて、ますます盛大になり、地域の子供輿として定着していった。

近年、児童数が激減して、人集めは容易でなくなったが、小学校・育友会等の協力を得て開催され、今日も自治会行事の一つとして年間事業計画に位置付けられ、継続実施されている。

新任者とともに

長崎市鳴滝 馬場登喜子
(昭和54年3月卒)



平成28年3月に長崎市立高尾小学校を退職し、新任者研修拠点校指導教員として再任用され、3年目を迎えた。昨年度までの2年間は、フルタイム一日勤務態勢で、1年間に4名(3校)の新任者を受け持ち週1回の研修を指導した。

今年度はハーフ勤務(半日勤務)となったので長崎市立蚊焼小学校を拠点校にして、川原小学校、野母崎小学校の3名(3校)を担当している。この3校が私にとって初めての長崎半島勤務である。車窓を眺めながらバスで通っている。岬の道に入ると光る海に浮かんだ伊王島、高島、端島(軍艦島)等素晴らしい景色が迎えてくれる。この2年間は、自分

自身の対応力が試された。「所変われば」といわれるように各小学校には、いろいろな子どもや保護者がいて、様々な地域性があり、現役の時以上に考えさせられることが多かった。そして、現在、3名の新任者の「よき教師になりたい」という思いをしつかり受け止めて後押ししている。

今、教育界は大きな転機を迎えている。外国語や道徳の教科化、ICTの活用推進、教職員の働き方改革、社会環境の変化等々新しい課題も多い。指導のためにさらに学ぶことも必要になっている。

新任者には、それぞれの思いと持ち味がある。彼らは自分の理想と現実、そして目の前の子どもたちの実態に合わせて、実践し、経験から学んでいる。今年度から新任者研修は原則2週間に1日の研修となった。したがって新任者育成を各校の教職員の先生方が担うところが大きくなった。ある意味各学校の活性化につながっている様子である。

これからも、先輩の先生方から学んだ大切な事柄を「啐啄同時」を意識しながら新任者に伝え、3校の子どもたちの瞳の輝きのために励んでいきたい。

銀行と絵とお茶の日々

長崎市錦町 久野みなみ
(平成28年3月卒)



今回、近況報告を寄稿させていただきました。現在社会人3年目です。私が大学を卒業したのはもう2年前ということになります。そんな感じはあまりしないのですが、時間が過ぎるのは早いものです。

さて、私は現在銀行員として働いています。この4月から、今まで2年間担当していた窓口・為替担当からローン・融資事務担当へと係替えになりました。銀行の中での係替えですが、業務の内容が完全に変わってしまったので2年間に付けた技術もあまり使えず、もう一度社会人1年目をしているような気持ちで日々の業務に携わっています。

業務の内容は主に、融資帳票の準備や整備、ローンの受付、電話セールのサポートです。もちろん、窓口が忙しければ応援に入り、預金の入出金や諸変更手続きの受付、相続の受付を行ったりしています。

銀行は暦通りに営業しますので、土日祝日はお休みです。休みの日には自分の趣味を楽しんで過ごしています。私は絵を描くことが好きなので、ゆっくり絵を描いたり、たまには漫画も描いてみたり、美術の本を読んだりしています。

そして、最近新しい趣味が増えました。中国茶です。もともとお茶には興味があったのですが、中華街のお店で飲んだ烏龍茶がとても美味しくて興味を持つようになりました。

中国茶は発酵の度合いによって緑茶、白茶、黄茶、青茶、紅茶、黒茶という種類に大きく分類されます。ちなみに烏龍茶は青茶のことです。茶葉の種類も非常に多いので何を飲もうか迷ってしまうのですが、それぞれに良さがあり、自分のお気に入りの香りを探すのが楽しみにもなっています。今まで触れたことが無いという方がいらっしゃれば、是非一度飲んでみてください。

わたしの教育実践

特別支援学級担任



長崎市立桜が丘小学校 四谷 繁

「個別に指導や支援をする方が向いていると思う。支援学級を担任してみないか。」

この言葉は、私が特別支援学級の担任をするきっかけとなった、前任校の校長の言葉です。

特別支援学級担任、1年目。知的障害の学級を担当した。習得できる基礎的な学力に加えて、児童一人ひとりとって将来必要となる技能を身につけさせることが求められた。毎日の掛け算九九の反復練習に加えて、将来複雑な計算ができるように、電卓の練習もした。平仮名や片仮名を書く練習に加えて、習得した文字を使って日記を書かせ、将来自分の気持ちや人を伝えられるように練習させた。児童が将来自分の力として計算や文字が使えるように心掛けた。特別支援学級担任、2年目。情緒障害の学級を担当した。自閉症スベ

クトラム障害やADHDなどの発達障害児がおり、障害による特性を持つている。児童は一人ひとり必要としている支援が違い、上手くいった支援方法でも別の児童では、全く上手くいかないということによくある。児童との十分な信頼関係を築いた上で、「この子」の必要としている支援が何かを考えることを心掛けた。

特別支援学級担任、3年目。今年度も引き続き情緒障害の学級の担任と、昨年度に引き続き特別支援コーディネーターを担当している。

児童への特別な教育的支援を充実させるため、保護者や外部機関の窓口となり、保護者との面談や巡回相談等を行っている。他にも、校内支援委員会を開き、個に応じた支援体制を学校全体で考えていくことも行っている。

私自身、日々新たな学びのある特別支援教育に多く携われていることに感謝している。この経験を今後の教育に生かさなければならぬと、日々努力しているところだ。

日々勉強、日々挑戦



西海市立大瀬戸中学校 林 田 薫

美しい山や川、そしてエメラルドグリーンに輝く海。そんな自然豊かな大瀬戸中学校に赴任して4年目となりました。

毎年の学級減により、今年度はとうとう全学年単学級でのスタートとなりました。しかし、教員や生徒の数が少ないからこそその温かい雰囲気、本校にはあふれており、全職員で全生徒を見守り、情報を共有する「オール大瀬戸」の体制が自然にできあがっています。

今回、「私の教育実践」について執筆するにあたり、恐縮ですが、この4年間で自らが目標を定め、取り組んできたことから、教科での取り組みを紹介できればと思います。

まず、本校にはデジタル教科書や電子黒板、ほうけんくんや実物投影機などのICT機器が充実しており、昨年度までの3年間は、これらの機器の効果的な活用を目指して取り組んできました。

それに加えて今年度は、全学年単学級、しかも数学科の教員が2名で

あることを生かし、少人数での授業に取り組んでいます。もちろん、ITでの授業以上に数学科同士の連携を密にする必要があります。少人数(2グループ)の分け方や進度、押さえるべき指導内容、テストや成績：確認事項は盛りだくさんです。そんな中、実際に授業を行ってみて、目に見える結果として大きな変化があつたわけではありません。しかし、「人数が少ないから発表がしやすい」「分からないところを聞きやすい」「前は数学が苦手だったけど、今は好きになった」など、面と向かって笑顔で話しかけてくれる生徒を見ただけで、効果は十分あつたのだと思います。

まだまだ若輩者で、他の先生方から助けていただくことも多く、毎日が勉強の日々ですが、ここでの経験を今後の教員生活に生かせるよう、生徒とともに成長していきたいと思



母校だより

日本公認 〇〇

教職大学院で学ぶ

長崎大学教育学部長 松元 浩一



教育学部同窓の皆様、お変わりなくお過ごしのことと拝察いたします。今夏は酷暑に始まり、その後も猛暑が続きました。静かな涼しい秋が待たれます。今回は、新しくなった教職大学院を一部ご案内いたします。

本学の教職大学院は、平成二十年四月に長崎大学大学院教育学研究科「教職実践専攻」として開設され、今年度十一月目を迎えました。基本的な教育目標は、設立時に変わらず、「教育の理論と実践の架橋」と定めています。一方、教育組織とカリキュラムは大きく刷新され、本県の学校現場に一層焦点を当てた内容に変わりました。この四月には新たに管理職養成コースが新設され、学校の組織力を高めるリーダーの育成をスタートしました。

教職大学院で学ぶことの主たる意義は、本質的な教育論、最新の学問的知見、高度な実践的技能等を有機的に結びつけて獲得できることに在ります。そのことを地域の先生方に体験して頂くために、六月と七月に三回にわたっ

て公開講座を開催いたしました。初回は、山崎滋夫元県教育次長がいつの時代にも色あせることのない万古不易の教育観と管理職としての在り方について、片峰茂前長崎大学長が、多様性、想像力、暗黙知の重視という視点から予測可能な変容の時代に求められる教育の在り方について論じられました。二回目は、渡辺敏則長崎大学監事（前県教育長）が教育行政から見た教職大学院の現状と今後の展望について、江頭明文県社会教育連絡協議会会長（元県教育次長）が、学校と地域、地域と地域を結ぶ教育活動についてご講話くだされました。両講話後の討論では、池田浩教授（元県教育次長）がファシリテーターとして、井手弘人准教授がコメンテーターとして加わり、熱い議論が交わされました。三回目は、中村典生教授が小学校英語について、内野成美准教授が子どもと家庭環境と教育について、藤井佑介准教授がアクティブラーニングについて、各々最新の知見を交えてわかりやすく論じて下さりました。

一般に大学院での学びはブリコラージュ的と言えます。ブリコラージュは、自ら身の回りのものを寄せ集めて自分で何かを作り出すことを言います。今日で言う「主体的な学び」の原型です。教職大学院で学び、そこで得られる情報を寄せ集めて、それらを言わば部品として何が作れるかを試行錯誤しながら最終的に新しい教育技法を作り出す。それは、幼児に見る試行、遊びを通じた学習・問題解決と軌を一にしています。MITのシーモア・パパートが説くように、あるいはレヴィストロース

が既に気づいていたように、ブリコラージュ的な学びは、人類のもつ普遍的な、世代を超えた知の営みであります。

昨年、当大学院修了者が勤務する学校長にアンケート調査をお願い致しました。修了者にも好評でした。修了者は多くがインセンティブや上位職に登用されております。そのことは、修了の諸氏が現場復帰後に力を発揮して、大学院での学びが目に見える形で教育実践に反映されてきていることを示しています。ですから、皆さん、教職大学院で学び、一緒に「ブリコラージュしてみませんか。皆さんの学びの舞台はいつでも当大学院に整っています。

さてここで、教育学部の人事をご報告いたします。平成三十年四月一日付で新たに七名の先生方をお迎えしました。吉良史明准教授（日本文学）、松添秀喜准教授（数学科教育）、熊崎耕太准教授（数学・解析学）、林幹大助教（化学）、兼原啓二准教授（美術・彫刻）、メイソン・シヤネン・リー助教（英語科教育）、加来秀俊准教授（教育心理学）です。各位のご活躍を心より祈念いたします。

最後に、玉園同窓会会長として永年力を尽くして来られた山崎滋夫先生が六月二十四日の本会総会をもって会長職を勇退なされました。ここに心から感謝申し上げます。ここにご発展とご健勝をお祈り申し上げます。玉園同窓会には、今年度も八月の盛夏のおり、十九日間にわたって学部生、大学院生に「教員採用対策セミナー」を開講して頂きました。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

長崎大学教育学部、大学院教育学研究科、附属学校園は一体となつて、変わらず、長崎県の教育に貢献いたす所存です。教育学部同窓お一人おひとりの御多幸と御活躍を深く念じております。

附属校園だより

〜 今年の研究 〜

【幼稚園】

○ 研究主題

遊びの中で育まれる自己肯定感

○ 期日 30年10月27日(土)

○ 場所 長崎大学附属幼稚園

【小学校】

○ 研究主題

未来を創る子ども

○ 期日 31年2月7日・8日

○ 場所 長崎大学附属小学校

【中学校】

○ 研究主題

未来を創る子ども

○ 期日 31年2月8日(金)

○ 場所 長崎大学附属中学校

【特別支援学校】

○ 研究主題

知的障害教育における教育課程の編成

○ 研究発表は、31年度に行います。



平成30年度 総会報告

日時 平成30年6月24日(日)

場所 長崎市立桜町小学校内

地域・学校交流センター

出席者 会員

顧問・参与・理事・監事・

幹事・地区委員

第1号議案(29年度の事業報告・決算の報告)

事業報告

1 長崎大学新入生保護者説明会において入会説明

2 現職会員の退職者への終身会員としての入会案内

3 会報の発行(年2回)

● 会報139号(10ページ)

8600部

テーマ『特色ある学校』

① 「感情を育てる俳句創作・鑑賞活動」

長崎市立西北小教頭 前田俊児

② 「国際色豊かな学校」

長崎市立朝日小校長 松尾 正

③ 「遠隔授業への取り組み」

7 平成29年度玉園同窓会地区懇話会

5 図書購入費助成事業

平成29年度の実績 時津北小学校

● サークル活動への支援(科学・美術・音楽)

6 青少年健全育成事業

平成29年度の実績 長崎ラグビー

スクール・諏訪の森柔道教室(1

団体につき5万円)

日時 1月27日(土)

場所 ロイヤルチェスターホテル

参加者 41名(松元浩一教育

部長ほか会員)

世話人 佐藤雄一(西彼地区長)、

溝川浩(時津北小学校長)

講演 玉園同窓会会長 山崎滋

夫「これから生きる子どもを前にいま考えていること」

● 懇親会

平成29年度玉園同窓会決算及び監査報告

● 次ページ掲載

第2号議案(平成30年度事業計画と

予算案の審議)

● 理事会・総会交流会(6月)、

専門部会(随時)会員の確保

● 会報の発行(141号・142

号)

● 地区懇話会の開催 開催地区

(東彼支部会場期日は未定)

● 教育学部との事業連携

● 各地区活動への支援

● 一般社団法人としての公益事業

の拡大・強化

(学校図書購入費助成、青少年

健全育成事業費助成、教職希望
学生等への支援事業)

第3号議案(準会員会費の改定と組織の改定)

1 3000円を5000円に改定

2 「地区組織」の中で、佐世保地区

と北松地区を統合して「佐世保・

北松地区」の一地区とする。



平成29年度 収 支 計 算 書 (平成29年4月1日から平成30年3月31日) (単位:円)

科 目	予 算 額	決 算 額	差 異	備 考
1. 収入の部				
(1) 入会金収入	420,000	444,000	△24,000	3,000円×148名
(2) 会費収入	2,640,000	2,154,000	486,000	{ 1,000円×2,094名 5,000円×12名
(3) 雑収入	50	2	48	
(4) 繰入金収入	2,500,000	3,100,000	△600,000	基金会計より繰入
当期収入合計(A)	5,560,050	5,698,002	△137,952	
前期繰越収支差額	278,585	278,585	0	
収入合計(B)	5,838,635	5,976,587	△137,952	
2. 支出の部				
(1) 事業費	3,026,000	2,965,674	60,326	会議費・会報発行費など
(2) 管理費	2,792,635	2,692,639	99,996	借料・光熱水費など
(3) 固定資産取得購入支出	0	0	0	
(4) 繰入金支出	20,000	20,000	0	退職積立金特別会計
当期支出合計(C)	5,838,635	5,678,313	160,322	
当期収支差額(A)-(C)	△278,585	19,689	△298,274	
次期繰越収支差額(B)-(C)	0	298,274	△298,274	

平成30年度 一般会計収支予算書 (平成30年4月1日から平成31年3月31日) (単位:円)

科 目	予 算 額	前年度予算額	増 減	備 考
1. 収入の部				
(1) 入会金収入	720,000	420,000	300,000	5,000円×240人×0.6
(2) 会費収入	2,320,000	2,640,000	△320,000	1,000円×3,700人×0.6 5,000円×40人×0.5
(3) 雑収入	30	50	△20	
(4) 繰入金収入	2,500,000	2,500,000	0	基金会計より繰入
当期収入合計(A)	5,540,030	5,560,050	△20,020	
前期繰越収支差額	298,274	278,585	19,689	
収入合計(B)	5,838,304	5,838,635	△331	
2. 支出の部				
(1) 事業費	3,093,000	3,026,000	67,000	公益事業関係含
(2) 管理費	2,725,304	2,792,635	△67,331	借料・光熱費など
(3) 固定資料取得購入支出	0	0	0	
(4) 繰入金支出	20,000	20,000	0	退職積立金特別会計
当期支出合計(C)	5,838,304	5,838,635	△331	
当期収支差額(A)-(C)	298,274	278,585	19,689	
次期繰越収支差額(B)-(C)	0	0	0	

役員紹介

—平成30年度—

敬称略

(顧問)

松元 浩一(長崎大学教育学部部長)

小田 恒治(長崎県教育会理事長)

(参与)

峯 信子(OB・S19)

小西 峯一(OB・S28)

宮地 計(OB・S30)

(法人理事)

(会長理事) 濱崎嘉一郎(OB・S39)

(副会長理事) 野田 和宏(OB・S43)

(法人理事) 木村 晃一(OB・S35)

〃 山崎 滋夫(OB・S37)

〃 村上 光子(OB・S38)

〃 西平 千治(OB・S39)

〃 峰松 終止(OB・S41)

〃 中嶋 将晴(青雲中高校長)

〃 中川 幸久(教育学部教授)

〃 池田 浩(教育学部教授)

〃 森 浩司(長与中学校長)

〃 松尾 克久(長与小学校長)

(事務局長) 野中 元則(OB・S38)

(監事) 縣 恒則(OB・S37)

島崎 賢一(OB・S41)

有川 政秀(OB・S44)

動いています同窓会

平成30年度 図書購入費助成校

本年度の図書購入費助成校は、長崎市立晴海台小学校、長崎市立女の都小学校、長崎市立橋小学校、対馬市立豊小学校、玉成高校附属中等部です。

図書贈呈式



(長崎市立橋小学校)

就職支援事業

教育・研修部による就職支援事業を、次の要領で行いました。

- ・期 日 7月31日～8月24日
- ・場 所 長崎大学教育学部
- ・内 容 個人面接・集団討議・小論文 等
- ・人 数 延べ486名



教育学部原爆殉難慰霊祭



8月9日、文教キャンパスにある、「長崎大学原爆殉難慰霊碑」の前で、厳かに原爆殉難慰霊祭を執り行いました。同窓会を代表して、永島寛延先生から慰霊の言葉が述べられました。



「長崎大学全学同窓会」開催される 「ホームカミングデー」



平成30年6月16日(土)、長崎大学文教キャンパスで、行われました。